

## 〈論 文〉

## 小学生の国語教科書と読書感想文にみる感情表現

—表現志向と表現形式の変化について—

堀 内 貴 子

キーワード：感情表現, 若年層, プラス評価, マイナス評価, 項,

## 1. はじめに

日本語の感情表現には様々なものがあり、それらを思い浮かべてみると、「うれしい」「たのしい」といったプラス評価のものや「悲しい」「つらい」などのマイナス評価のものがある。また、形の面から考えると、「感情形容詞」や「感情動詞」が代表的であろうが、他にも様々なものがある。例えば日本語母語話者は感情表現をするのにいくつかの語彙を接続し、感情形容詞や動詞だけではなく、豊かに表現することもできる。本稿では、日本語の感情表現について「表現志向」と「表現構成」という観点から小学生の国語教科書と読書感想文を資料に調査を行った。

## 2. 分析方法

## 2.1 本稿で研究対象とする感情表現について

前田（1993）は言語での感情表現について「感情語を考える場合の基本としては、感情語彙から出発すべきであろう」また、「慣用的な表現も問題となってくる。更に心というものは明確にしがたいものであるから、それを表すための比喩表現も多彩である。」と述べている。言語における感情表現の代表的なものは感情形容詞や感情動詞であるが、実際にはそれ以外のものも多い。前田が述べのように比喩表現も多彩であり、すべてを明確に規定するのは難しい。

そこで本稿では先行研究の中から中村（1993）の『感情表現辞典』を参考に感情表現を選択し、さらに筆者の判断から『感情表現辞典』に掲載されていないもの、次の条件に当てはまるものを付け加える。なぜなら、この辞典は文学作品をもとに編集されているので、実際の表出例と照らし合わせてみると、感情表現全てをまとめているとはいいがたいからである。

### (1) 感情形容詞・感情動詞

一般的に形容詞、動詞の中でも感情形容詞、感情動詞は人の感情を表現するものと定義されている。『感情表現辞典』にも感情形容詞、感情動詞のほとんどのものが掲載されているが、抜けている可能性を考慮し、改めてあげる。

### (2) 感情を表現するオノマトペ

オノマトペとは擬音語、擬声語、擬態語と呼ばれる語句のことである。『感情表現辞典』にもいくつか掲載されているが、実際の表出例には促音が入ったものなど多少表記に差があるものが見られる。例えば、「いらいらする」はあるが「いらっとする」は掲載されていない。「いらっ」の意味を考えると「いらいら」などと同じで腹立たしいさまを表している感情表現である。本研究では『感情表現辞典』に準じて、「いらっ」のように考えられるものについてもなるべく広く扱い、感情表現として捉える。

### (3) 「気持ち」「気分」「心」「気」についての表現

『日本国語大辞典 第二版』(2001)では感情について「物事に感じて起こる心持。気分。喜怒哀楽などの気持ち。」と定義する。「心持」というのは心の状態、気持ち、気分を指す言葉であるので、「気持ち」「気分」「心」「気」について表現しているものについても感情表現とする。

### (4) その他

(1)～(3)ではほぼ感情表現について網羅できるが、比喩的な表現も加える。

## 2.2 資料

本稿で使用した資料は国語科の教科書と読書感想文である。詳しくは次の通りである。

### 2.2.1 国語科の教科書

現在、日本国内の小学校で使用されている国語科の検定教科書<sup>(1)</sup>は5社から発行されている。本稿ではその中から光村図書出版株式会社のものを資料とする。比較のため読書感想文と同じように低学年(小学1, 2年)・中学年(小学3, 4年)・高学年(小学5, 6年)と分類する<sup>(2)</sup>。

### 2.2.2 読書感想文

毎年、全国規模で行われる読書感想文コンクールの入選作品を集めた本が出版されている。その中で2004年度のコンクールの入選作品を集めた本を使用し、低学年(小学1, 2年)・中学年(小学3, 4年)・高学年(小学5, 6年)の読書感想文からそれぞれ30人分を資料とする<sup>(3)</sup>。この本には「自由読書」と「課題読書」の項目があり、今回使用した資料はほとんどが自由読書である。自由読書というのは「自由に選んだ図書。フィクション、ノンフィクションを問わない。」であり、感想文

の対象となる本は自由に投稿者である児童がそれぞれ選んだものであると考えられる。

## 2.3 分析方法

### 2.3.1 表現志向

感情表現の語句が持つ意味の評価にはさまざまなものがある。表現志向とは事物に対し、どのように感情を表現するかということである。特に、本稿ではプラス評価、マイナス評価という観点を中心に述べる。

例えば感情形容詞の「嬉しい」「悲しい」は、それぞれ「嬉しい」はプラス評価、「悲しい」はマイナス評価を持っていると考えられる。『感情表現辞典』では感情表現を「喜・怒・哀・怖・恥・好・厭・昂・安・驚」の10種類の見出しを採用しており、本稿ではこれをもとにプラス評価、マイナス評価、さらにどちらでもない中間の3種類に分類する。

表1 分類例：プラス評価、マイナス評価

マイナス評価 (怒・哀・怖・恥・厭)	中間 (昂・驚)	プラス評価 (喜・好・安)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・悲しい</li> <li>・もやもやとした気持ち</li> <li>・不安になっていた</li> <li>・イライラさせられ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おどろいた</li> <li>・はっとした</li> <li>・おそれず</li> <li>・たのしくない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしい</li> <li>・たのしい</li> <li>・なんとなくほっとする</li> <li>・心にじーんとあたたかいものがこみあげてきました</li> </ul>

表1のように「楽しい」や「うれしい」、「好き」などの「喜・好・安」をプラス評価、「驚く」や「びっくりする」などの「昂・驚」を中間、「悲しい」や「怒る」、「いやだ」などの「怒・哀・怖・恥・厭」をマイナス評価とする。しかし、全てがこれにあてはまるわけではないので、筆者の判断で、文脈上良い評価をもつ感情をプラス評価、悪い評価を持つ感情をマイナス評価とし、どちらでもないものを中間とした。また、「楽しくない」などのプラス評価が否定されたもの、「悲しくない」などの否定形の場合も中間とする。これは単純に意味を考えれば「楽しくない」=「つまらない」、「うれしくない」=「悲しい」となるのだが、語彙本来の性質を考えると、適切な分類とはいえない。そこで、便宜上、中間とした。2.1の感情表現の定義に従って、感情を取り出し、それを先に述べたプラス評価・マイナス評価・中間にわけ、集計する。

### 2.3.2 表現構成

感情表現は感情形容詞や感情動詞を一語で使用して表現するものだけではなく、それ以外の形容詞、動詞、オノマトペ、副詞で表現するもの、またそれらを組み合わせて表現するものもある。表現構成とは、感情表現をどのような言葉で表しているかということである。調査資料から2.1の感情表現の定義に従って、感情を取り出し、どのような構成をしているか調査するため、感情表現を学校文法の自立語を中心に名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・オノマトペ（擬音語・擬態語・擬

声語)に限り、品詞分解し、それを項として集計する。

表2 分類例：項

1項	うれしい 楽しい かなしかった おどろいた
2項	ちょっとだけ はずかしいです びっくりしました ひやひや したり ほんとした
3項	たのしい きもちになりました 心があつたかくなつた うれしくて、じいんと なつた とてもうれしく なります
4項	ふあんな きもちで いっぱいになりました 胸が しめつけられ そうになつた どーんと つきおとされた 気分になる
5項	ほんとして 心があたたかくなりました 心の中が 軽くなつた 気がした たのしく わくわく する かんじが しました

### 3. 結果と考察

#### 3.1 表現志向

表3 感情表現をプラス評価、中間、マイナス評価に分類した用例数

	マイナス	中間	プラス
教科書低学年	40	12	100
教科書中学年	69	26	126
教科書高学年	110	38	170
読書感想文低学年	79	23	109
読書感想文中学年	111	17	97
読書感想文高学年	160	18	93

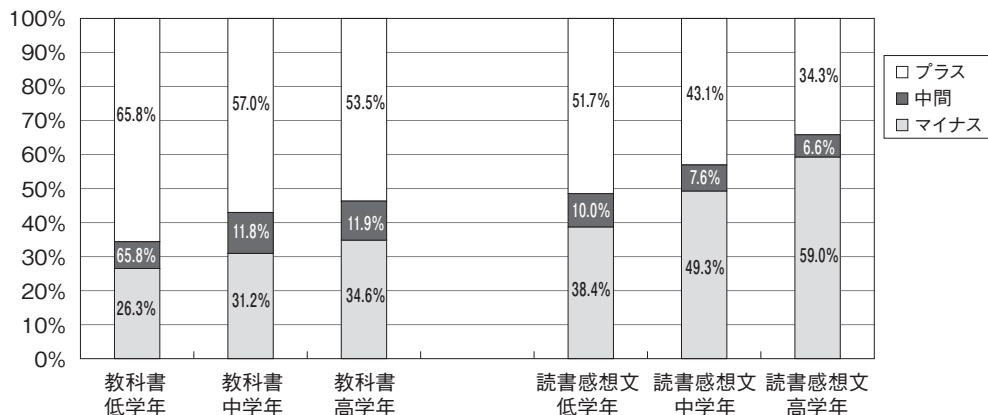


図1 感情表現をプラス評価、中間、マイナス評価に分類した割合

国語科の教科書と読書感想文どちらにおいても、低学年、中学年、高学年と学年があがると、マイナス評価の感情表現の割合が増え、プラス評価の感情表現の割合が少なくなった。さらに両者を

比較してみると、教科書低学年→教科書中学年→教科書高学年→読書感想文低学年→読書感想文中学年→読書感想文高学年となるにつれ、「プラス評価の割合が多く、マイナス評価の割合が少ない」からだんだんと「プラス評価は少なく、マイナス評価が多い」ように移り変わっていくのが分かる。これらのことから、若年層に対する日本語の感情表現、若年層が使用する感情表現は学年が低いと、プラス評価の感情表現が好まれるが、高学年になるとマイナス評価の感情表現の使用が増えること、若年層に対する国語教科書は実際の表出よりも、プラス評価の感情表現が好まれるという表現志向があるといえるだろう。

3.2 表現構成

表4 感情表現を項に分けて分類した用例数

	1項	2項	3項	4項	5項	6項	7項	8項
教科書低学年	113	38	1	1	0	0	0	0
教科書中学年	146	68	6	2	0	0	0	0
教科書高学年	239	78	14	5	0	0	0	1
読書感想文低学年	180	124	35	14	1	1	1	0
読書感想文中学年	192	158	52	13	6	1	3	0
読書感想文高学年	232	121	52	13	7	4	3	1

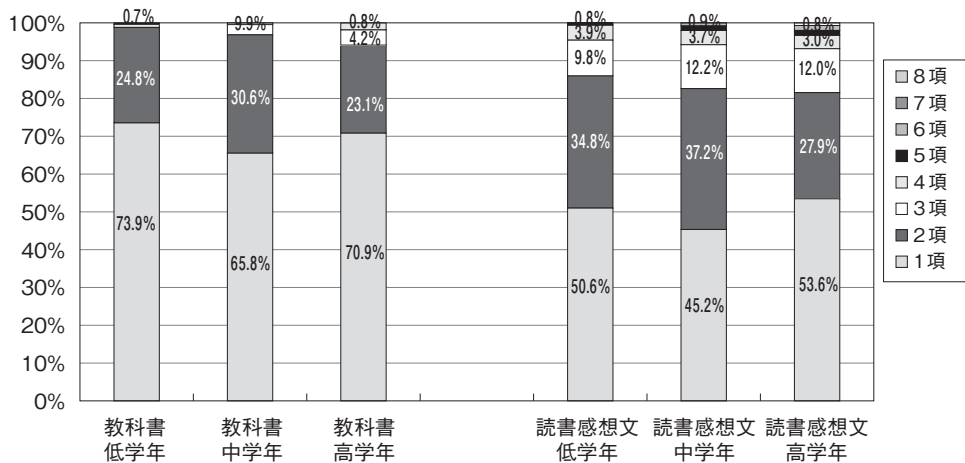


図2 感情表現を項に分けて分類した割合

国語科の教科書は低学年、中学年、高学年とも1項の割合が70%前後と多くを占め、2項と合わせると90%以上になり、感情表現はほとんどが1項、2項で表現されていることが分かる。

読書感想文では低学年、中学年、高学年とも、1項が50%前後の割合であり、1項と2項で約80%の割合を占めていることが分かる。

国語科の教科書と読書感想文どちらにおいても2項までの表現の割合が高く、80%以上を占めているが、それ以外、3項以上の割合に注目すると、教科書低学年→教科書中学年→教科書高学年→

読書感想文低学年→読書感想文中学年→読書感想文高学年とわずかな差であるが、増えていることがわかる。

これらのことから、若年層へ使用する日本語の感情表現、若年層が使用する感情表現の表現構成は1項、2項がほとんどであるが、学年が上がると3項以上の割合も増えていくこと、また国語教科書よりも実際の表出である読書感想文のほうが多項の割合が多く、語句を多用し複雑に表現をしていることが分かる。

## 5. おわりに

日本語の感情表現について、国語教科書と読書感想文を資料にみた結果、表現志向と表現構成の結果から考えると、国語科の教科書は「楽しく単純」であり、読書感想文は国語科の教科書に比べて「悲観的で複雑」であるといえるだろう。国語科の教科書が一般的に広い対象を視野に入れているのに対し、読書感想文は選ばれた作品でありそれを書く筆者の文章力が一般より高いためと説明できるので単純には比較できない。今後は、さらに資料を増やすことで一般化できるように研究を進めていく。

### 〈注〉

- (1) 学校教育法第34条では「小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教育用図書を使用しなければならない。」と定めており、通常、検定を通過した教科書の中から、各都道府県教育委員会や学校長などが裁量により、使用する教科書を決定する。
- (2) 以下「教科書低学年」「教科書中学年」「教科書高学年」とする。
- (3) 以下「読書感想文低学年」「読書感想文中学年」「読書感想文高学年」とする。

### 参考文献

- 加藤安彦 (1993) 「国定読本の喜怒哀楽を表すことば—学年経過に伴う語の多様化—」『日本語学』12:1, pp.71-84. 明治書院
- 中村明 (1993) 『感情表現辞典』東京堂出版
- 飛田良文・浅田秀子 (1991) 『現代形容詞辞典』東京堂出版
- 堀内貴子 (2007) 「若年層の読書感想文における感情表現の語句について—複雑さの一考察—」『第5回韓国日本学連合会国際学術大会予稿集』, pp.428-432.
- (2008) 「日本語の感情表現の実態—プラス評価、マイナス評価に注目して—」『日本語教育学世界大会2008《第7回日本語教育国際研究大会》予稿集》2, pp.114-117.
- (2009. 2) 「日本語母語話者と韓国人日本語学習者の感情表現—プラス評価、マイナス評価に注目して—」『明海日本語』14号, 明海大学日本語学会, pp.59-66.
- (2009. 7) 「日本語における感情表現のプラス評価・マイナス評価—作文と国語科の教科書から—」『日語研究論文集—日語研究の新視野—』, pp.225-237.
- 前田富祺 (1993) 「日本語の感情を表すことば」『日本語学』12:1, pp.4-13 明治書院